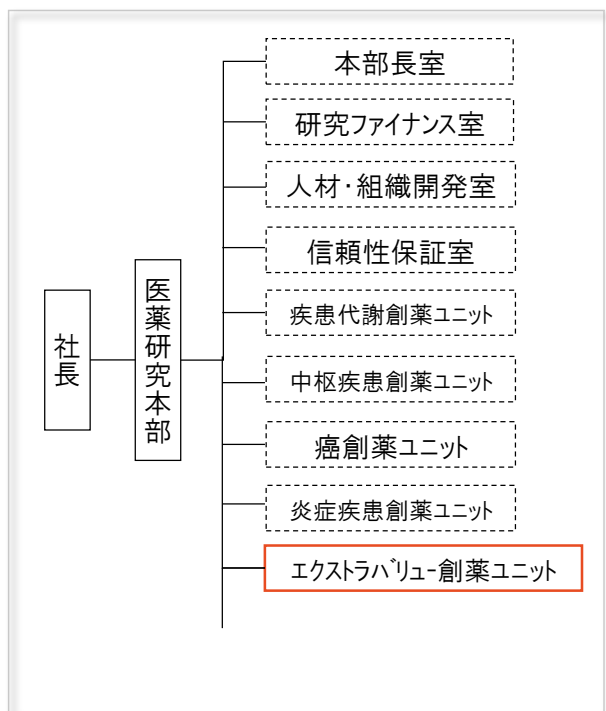


5. 各社のドラッグ・リポジショニングへの取り組み・提携状況

1) 武田薬品工業

(1) 主なドラッグ・リポジショニング関連の取り組み状況(2012年～2016年2月)

年	月	内容	対象疾患/ 予定適応
2012	-	過去に開発を中止した化合物を中心に、新規効能への再開発に取り組む“Mono-okiプロジェクト”を開始	希少疾患、糖尿病、統合失調症等
2012	4	湘南研究所の医薬研究本部傘下に、ドラッグ・リポジショニングを専門的に行う部門として、“エクストラバリュー創薬ユニット”を設置	代謝、癌、中枢、炎症及びこれ以外の疾患領域
2012	8	湘南研究所で“湘南インキュベーションラボ”事業を開始。外部研究者を招き入れ、医薬品候補となる化合物探索などを行う	-



- 同社における2012年から2016年2月までの、主なドラッグ・リポジショニング関連の取り組み状況は上表の通り。2012年4月に国内の研究拠点である湘南研究所内にドラッグ・リポジショニングを専門的に行う部門として、「エクストラバリュー創薬ユニット」を設置している。同ユニットでは、開発途中で中止となった化合物や既承認化合物を再検討し、新効能を探索する研究に取り組んでいる。
- 2012年8月には、湘南研究所において“湘南インキュベーションラボ”の事業を開始した。同事業は、外部から研究者を招き入れ、医薬品の候補となる化合物探索などに取り組んでいくこと等を目的としている。
- この他、同社においては、2012年から過去に開発を中止した化合物を中心に、希少疾患などの新規効能への再開発に取り組む“Mono-okiプロジェクト”を開始。同プロジェクトでは、事業の一環として、医薬研究本部の全社員から化合物を開発するアイデアを募り、希少疾患や糖尿病、統合失調症などの効能の可能性を検討している。また、対象化合物の選定にあたっては、過去に取得した特許の期間延長を図るべく、多様な形態の開発を進めるなどの特許戦略を考慮する考え。さらに、製品化にあたっては、過去に中止した時点での試験成績を活用し、臨床試験の短期化に挑んでいる。

(2) 主なドラッグ・リポジショニング関連の提携状況(2012年～2016年2月)

提携分類		年	月	相手先	内容	対象疾患/ 予定適応
相手	内容					
アカデミア/ 研究機関	化合物/ 化合物情 報の提供	2012	6	東京大学	同社が開発を中止したアルツハイマー型認知症治療薬候補の「TAK-070」を東京大学に譲渡する契約を締結	アルツハイマー
その他	化合物/ 化合物情 報の提供	2013	6	MMV	同社とMMV(Medicines for Malaria Venture)の間で、同社の保有する化合物ライブラリーから抗マラリア薬となりうる新薬候補化合物を見出し(DSM265、ELQ300)、共同開発を実施する	感染症(エイズ、結核、マラリア等)
政府機関	化合物/ 化合物情 報の提供	2014	7	MRC	同社を含む製薬メーカー7社とMRC(英:医学研究協議会)のパートナーシップにより、優先度の低い開発中止品の医薬品情報をバーチャル図書館に集め、英国研究者のアクセスを可能にする契約を締結	-
DR関連 企業	スクリーニング 技術の利用	2015	4	BioXcel	同社の米国武田開発センターとビッグデータの分析を行っているBioXcelとの間で、希少疾患治療薬の開発に関する提携を締結。BioXcelの“innovation lab”を用いて、同社の古い薬剤を新たな希少疾患治療薬として製品化することを目的としている	希少疾患
その他	化合物/ 化合物情 報の提供	2015	6	DNDi	同社を含む4社と非営利財団DNDi(Drugs for Neglected Diseases initiative)は、GHIT Fundの支援の下、リーシュマニア症及びシャーガス病に対する早期の新薬開発を可能にする“創薬ブースター”を開始	リーシュマニア 症、シャーガ ス病

- 同社における2012年から2016年2月までの、主なドラッグ・リポジショニング関連の提携状況は上表の通り。同社では、アカデミアや政府機関、ドラッグ・リポジショニング関連企業等、幅広い提携関係を結んでいる。すなわち、2012年6月に、同社が開発を中止したアルツハイマー型認知症治療薬候補の「TAK-070」について、東京大学に譲渡する契約を締結している。2013年6月には、同社とMMVの間で、同社の保有する化合物ライブラリーからマラリアに対する新薬候補化合物を見出し、共同で開発する契約を締結している。
- また、2014年7月には同社を含む製薬メーカー7社(他GSK、Janssen Research&Development、Eli Lilly、Pfizer、AstraZeneca、UCB)とMRCとのパートナーシップ契約を締結した。具体的には、各社が開発初期段階で有効性が示せず開発を中止した医薬品のうち、優先度の低い医薬品情報を集めた“バーチャル図書館”を設置し、英国の研究者からのアプローチを可能にしている。
- さらに、2015年4月には米国武田開発センターとBioXcelが希少疾患治療薬の開発に関する提携を締結。BioXcelの“innovation lab”と呼ばれるビッグデータを用いて、同社の古い薬剤を新たな希少疾患治療薬として製品化することを目的としている。